



令和6年度 諏訪二葉高等学校評価表(年度当初)

長野県諏訪二葉高等学校 学校評価委員会

本校の学校教育目標	1 自主 2 努力 3 感謝
中長期目標	1 生徒一人ひとりの個性を伸ばし、主体性のある心豊かな生徒を育成する。 2 開かれた学校をめざし、保護者・地域から信頼される学校づくりを進める。
本年度の重点目標	1 キャリア教育を通じて自ら学ぶ姿勢を育て、生徒の進路希望の実現を図る。 2 「探究的な学び」を取り入れた授業改善により、生徒の課題解決力・コミュニケーション能力の育成、学力向上に努める。 3 いじめ、体罰のない安心・安全な学校づくりを図る。 4 学校生活の基盤となる規律ある生活態度を育成する。 5 生徒会活動や部活動の活性化を図り、生徒の自主性を育てる。 6 地域と連携し、開かれた学校づくりを推進する。

目標の項目別の評価とコメント

評価方法

A：成果が見られた

B：向上が見られた

C：改善が必要である

重点目標		評価項目と評価の観点		観点別 評価	項目 評価	担当部署
重点目標		評価の観点		観点別 評価	項目 評価	担当部署
1 生徒の進路 実現を図る	より高い進 路意識の育 成を図り、 分析会議等 を充実させ 学力向上の 改善策を提 言する。	①	・ P T A 及び同窓会と連携した進路講演会の開催や進路通信の発行により、生徒・保護者に必要な情報を提供し、進路実現に向けた高い意識を涵養し、協力関係を強めて進路実現につなげていく。 ・ 学級担任や学年と連携を図りながら、生徒ひとりひとりの進路相談に応じて個の可能性を広げ、きめ細かい指導と情報提供を行って進路実現の手助けをする。			進路支援
		②	・ 学習・探求学習・ I C T 教育係と連携しながら、模試分析システム等を活用してスタディーサポート・スタディーサプリや模試の分析を行い、学力・学習実態を把握する。また、充実した指導につなげるため、模試分析会議や進路検討会を開催し、情報を学年・教科と共有する。 ・ 学力向上および新大学入試に向けて先進的な取り組みをしている学校の例を参考にしながら、本校における改善策を検討・実施する。			進路支援
	キャリア教育の充実を図る。	①	キャリア教育全体計画に従い、次の目標を達成させる指導を行う。 ・ 総合的な探究の時間を通して自己を理解し、職業観や生き方など自分の将来像を描き、その実現のために学ぶという目的意識を持てるように、寄り添い指導していく。 ・ 情報収集判断能力、プレゼンテーション能力、自分自身の考えを伝える、相手の考えに耳を傾ける力を育てる。 ・ 幅広い分野についての探究を通して、地域社会の新たな課題を発見し、地域社会の一員として行動する態度を育成することができるようにする。 ・ 地元企業訪問、地元企業を知るや諏訪圏工業メッセを通じ、現場の方の経験談を聞くことで、明確な将来像を描きながら学習できるように、計画・実施する。			学習キャリア

2 生徒の学力 向上に努める	生徒の学習 意欲の向上 に努める。	①	研究授業や授業アンケートの分析に基づき、より一層の授業の充実を図る。生徒の興味、関心を引き出すことができる授業を実践していく。			学習キャリア
		②	学習室、テスト前学習室等を設置し、定期考査に向けた学習を大切にさせるような環境・雰囲気作りにつとめる。			学習キャリア
	生徒の学習 習慣と学力 の定着を図る。	①	学習実態調査等を利用し、規律ある生活と家庭学習の習慣の確立を図る。			学習キャリア
		②	毎日の授業を大切にすること意識を持たせるとともに、3年土曜セミナーや朝・放課後の学習等を充実させる。1・2年土曜セミナーを設け、模試の復習、質問等をきめ細かに対応し、さらなる学力の定着をはかる。自ら学ぶ意識を持たせ、家庭学習の充実につなげる。			学習キャリア
3 安心・安全 な学校づく りを図る	安心・安全 な教育環境 を作る。	①	いじめ、不登校など生徒の動向を細かく観察して、問題等を的確に把握し、適切に対処する。			生徒支援
4 規律ある生 活態度を育 成する	規則を守 り、生徒が 安心して生 活できる環 境を整備す る。	①	登下校時の街頭指導やHR連絡を通して、自転車乗車時のヘルメットの着用や交通マナー、ルールを守る意識を高めさせる。そして自分自身や周囲の人々の安全にも配慮するように指導する。警察とも連携して登下校時の安全確保に務める。			生徒支援
		②	特別な支援を要する生徒の把握に努める。個々の生徒の状況に応じた柔軟で多面的な支援をする。			生徒支援(特別支援)
5 生徒の自主 性を育てる	生徒会活動 の活性化を 図る。	①	生徒の発想を活かしながら、テーマに沿った文化祭の企画や展示が行われるよう、各係間や生徒と教員との連携を図る。			生徒会
		②	各委員会での当番活動を充実させ、生徒が意識と責任をもって委員会活動に取り組むことができるよう努める。特にエコマネジメントについて、各委員会でのようなことができるかを検討し、生徒・職員が協力し成果を上げるようにする。			生徒会
	部活動等の 活性化を図 る。	①	部活動部が円滑に運営されるよう、部長（代表者）会の開催などにより活動環境を整備するとともに、生徒が自ら意欲を持って取り組めるよう働きかける。			生徒会
6 開かれた 学校をつく る	PTA活動の充 実を図る。	①	春期秋期学年懇談会を充実させ、PTA活動の周知と多くの会員の参加により活動の活性化を図る。無理のない活動や交流の機会を検討する。			P T A
	地域との連 携を図る。	①	学校評議員や保護者・地域からの声など外部の意見を積極的に聞くとともに体験入学・公開授業等、学校を開放する機会を設ける。様々な機関と連携し、生徒の探究活動を支援する。			教務
	広報活動の 充実を図る。	①	教育活動内容をWebサイトを通じて速やかに発信し、生徒の日々の活動が迅速に伝わるようにする。学校案内パンフレットがわかりやすいものになるように工夫する。			教務